

理工学域 地球社会基盤学類 環境都市コース
【授与する学位】学士（工学）

大学（大学院）の目的
金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
理工学域は、基礎科学と工学の先進的な研究を通して理工学の高度な専門知識を育み、高い倫理性と豊かな教養を備え、課題探求能力と国際感覚をもって自然環境と調和のとれた科学と技術の発展を目指し、人類の幸福のため世界で活躍する個性輝く人材を養成することを目的とする。 地球社会基盤学類は、地球環境科学及び土木都市工学に関わる俯瞰的で幅広い基礎知識と特化した専門知識を身に付けた、高度な学理探求を目指す研究者、地球環境の課題解決や人々の豊かな生活と持続的発展を志向する安全で安心な社会の基盤づくりを担う技術者、ならびに次世代の人材育成を担う教育者を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】 地球をとりまく自然現象に関する理解の深化に果敢に挑む冒険心、人間社会と自然とのより良い共生のあり方を模索し続ける探求心、魅力ある都市・環境づくりへのチャレンジ精神をもち、持てる知識全てを総合的に活かして、地球、環境、防災、都市、社会基盤に関する調査・研究・開発ができる人材を育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた目標を通じて、学類の人材養成目標に到達した者に学士（工学）の学位を授与する。	【教育課程編成に関する基本的考え方】 地球社会基盤学類では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ソリヤーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。	【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】 地球社会基盤学類では、共通教育としての金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）に基づき、グローバル社会をリードする人材育成のため、われわれ人類の生存基盤となる地球、日常生活基盤となる社会及びそれらを取り巻く環境を対象に、理学と工学の両面から柔軟に思考できる能力を身につけるため、地球惑星科学・環境科学や環境工学、土木工学、防災工学、都市工学に関わる俯瞰的で幅広い基礎知識と特化した専門知識に基づく総合的・実践的な教育・研究を行い、地域からグローバルまでさまざまな局面において、社会をリードする研究者・技術者・教育者を養成します。科学的探究心に富み、これらの分野の専門知識を生かして活躍したいと考えている学修意欲のある人の入学を期待します。本学類には、地球惑星科学、土木防災、環境都市の3つのコースがあり、各コースへの配属は2年後期開始前に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。
【学生が身に付けるべき資質・能力】 （総合基礎学力）環境都市及び土木防災に関連する自然科学・社会科学の基礎を修得し、技術者としての総合的な基盤を形成する能力。 （専門基礎学力）環境都市及び土木防災の幅広い局面で必要となる専門的知識を正しく理解できる能力。 （思考・判断）歴史や文化を含む地域の特性と調和した社会基盤の整備の重要性と責任を自覚し、専門的知識に基づいて多角的な状況分析と現在と未来の課題設定を行い、それを計画的に実践できる能力。 （関心・意欲）国内外の社会的要請や社会環境の変化に柔軟に対応し、自主的・継続的に学修できる能力。 （態度・倫理）社会基盤整備の持つ影響力の重要性を理解し、技術者倫理に則って人類の発展や福祉と地球環境との調和に貢献できる能力。 （技能・表現・行動）自己の考えの論理的な記述と効果的な説明を行うことができ、異なる専門分野や価値観の人たちと共同で仕事ができる協調性と指導力。	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】 1.教育内容 環境都市コースでは、2年次第1・第2クォーターで地球社会基盤学類共通科目、2年次第3・第4クォーターで土木防災コース・環境都市コースの共通科目を配置して『学修目標：専門基礎学力』を目指し、土木・防災工学も含めて環境・都市工学の幅広い局面で必要となる専門知識の基礎を階層的に教授する。 専門基礎科目修得後の3年次及び4年次第1・第2クォーターには、土木防災コースと連携しつつ、本コースの特徴である本コースの特徴である「都市・地域に関わる社会活動の調査・計画」、「都市などにおける環境の維持と廃棄物の処理・再生」に関する専門的応用科目に重点を置き、専門知識をより深く学び、『学修目標：専門基礎学力』の充実を図るとともに、それらの知識の活用を志向した『学修目標：思考・判断』に関連する科目群を配置する。また、幅広い専門知識を活用し、現在と未来の課題に対して問題解決型のデザイン教育科目を設定し、共同作業によるチームワーク力を鍛えるとともに、実践的な教育を通して『学修目標：関心・意欲』の修得に取り組んでいる。さらに、特定の科目だけに留まらず、主要な専門科目やデザイン教育科目において技術者倫理の話題を取り上げ、カリキュラム内で横断的・連続的に『学修目標：態度・倫理』を身につけさせる構成としている。 1年次から3年次にわたるさまざまな実験・実習科目における実践を通して『学修目標：技能・表現・行動』を身につけさせ、4年次の社会基盤工学卒業研究ではカリキュラムの総まとめと位置づけ、指導教員の下で特定のテーマについて理解の深化を図らせる。なお、本カリキュラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準を満たす内容のプログラムである。また、建築学副専攻の履修により建築学の基礎を学び、建築士の受験資格を得るための学力を身につけることも可能である。 2.教育方法 （1）講義科目では、専門知識を学修し、その理解を問う試験・レポートを課す。 （2）実験科目及び演習科目では、演習や実験のプロセスにおいて論理的思考・ディスカッション・プレゼンテーションの能力等を養う。 （3）卒業研究では主任指導教員1名を置き、多角的な視点から指導・助言を行う。	【求める人材】 ・自然現象に対する科学的探究心のある人 ・人文社会科学にも関心のある理系人間 ・実験・野外調査や、ものづくり・創意工夫に興味のある人 ・地域・我が国・世界の自然災害や防災・減災に関心のある人 ・地球惑星科学、環境科学及び社会基盤工学の専門家や研究者になりたい人 ・地球・環境・都市の課題に対し、科学技術を通じた社会貢献がしたい人 ・都市や社会を支えるための科学技術に関心がある人
【学修成果の評価】 科目ごとに対応する学修成果が定められており、関連科目群の学修状況に基づき、各学修成果を総合して、学修成果の達成度を評価する。なお、卒業研究の評価は論文等の審査及び口述試験により実施する。	【選抜の基本方針】 ■一般選抜 基礎学力に加え、理系基礎科目である数学、理科及び英語の学力を重視します。また、理系科目だけではなく国語や地歴歴史・公民を含む幅広い能力も評価します。 ■KUGS特別入試 （総合型選抜） 大学入学共通テストと成績証明書（調査書）により基礎学力を評価し、口述試験により、地球惑星科学若しくは社会基盤工学の勉学意欲及び資質を評価します。 （学校推薦型選抜） 出身学校長が責任を持って推薦する優秀な人物について、口述試験により、地球惑星科学に対する志向の明確さと勉学意欲及び資質を評価します。 ■超然特別入試（A-lympiad選抜） 「日本数学 A-lympiad」における受賞及び調査書を参考にして、理数系分野及び英語の高いレベルの学力、理工学分野の勉学意欲及び資質等を口述試験（プレゼンテーションを含む）によって総合的に評価します。 ■帰国生徒選抜 理系基礎科目である数学、理科及び英語の学力を重視します。 ■国際バカロレア入試 地球惑星科学及び社会基盤工学の基礎となる数学、物理及び化学の学力を重視し、成績評価証明書等により評価します。また、口述試験により、地球惑星科学若しくは社会基盤工学の勉学意欲及び資質を評価します。 ■私費外国人留学生入試 日本語の聴解・読解力に加え、理系基礎科目である数学、物理、化学及び英語の学力を重視するとともに、口述試験により、学類での授業を理解するための基礎知識、日本語によるコミュニケーション能力、理工学分野の勉学意欲及び資質を評価します。	
		【入学までに身につけて欲しい教科・科目等】 高等学校で履修した科目（大学入学共通テストで課している科目を含む）について、しっかりと身につけておくことが必要です。特に、理系科目である数学、理科、また英語については、应用能力を含め、しっかりと身につけておくことが必要です。また、総合的な学力を身につけるために、理系のみならず、人文社会系科目の学修も勧めます。